

## ◆漁業士活用育成事業

# 平成23年度九州ブロック漁業士研修会報告

水産業改良普及センター本部駐在 中村勇次

### 1 目的

熊本県で開催される九州ブロック漁業士研修会への参加と翌日の乗船研修へ参加して他府県の漁業士会活動について情報収集を行う。

### 2 日程及び場所

#### 【1日目】

平成23年9月6日（火）

九州ブロック漁業士研修会 熊本県漁業協同組合連合会会議室

#### 【2日目】

平成23年9月7日（水）

乗船研修 芦北漁業協同組合

### 3 参加者

伊平屋村漁協青年漁業士 新里斉士

### 4 引率者

沖縄県水産業改良普及センター本部駐在  
水産業普及指導員 中村勇次

### 5 内容及び所感

平成23年9月6日から7日にかけて熊本県において漁業士九州ブロック研修会及び乗船研修に参加した。

9月6日の九州ブロック漁業士研修会では、熊本県と水産庁からの挨拶に引き続き、講演として「6次産業化の推進について」が九州農政局経営・事業支援部事業戦略課今村裕治氏から、「漁業士・漁業士会をさらに有意義なものとするために」が水産庁増殖推進部研究指導課田名全氏から、「観光打瀬網漁業と藻場再生への取り組み」が芦北漁業協同組合八里代表理事組合長からそれぞれ報告された。

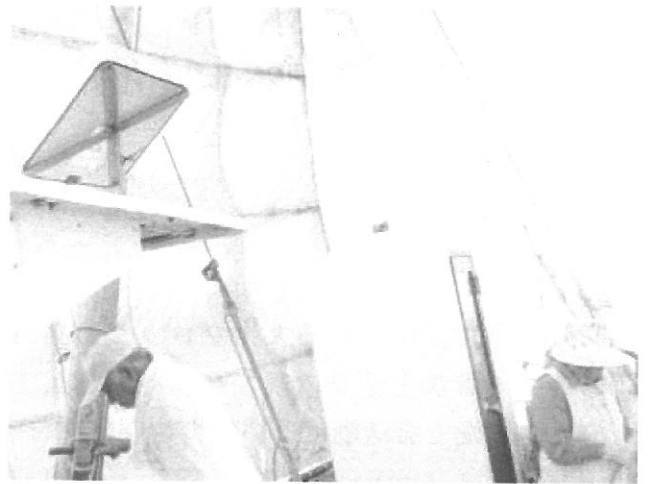
その後、休憩を挟んで各県事例報告及び意見交換が行われた。各県報告事例には非常に温度差があり、活発に活動しており参考になる事例から佐賀県のように漁業士会が存在しない地区など多岐に渡っていた。本県からは、新里青年漁業士が伊平屋島での漁業再生支援事業を利用した地域活動について報告した。会議終了後、熊本市内の料亭に場所を移して情報交換会が行われた。多くの参加があり、大変賑わいのある情報交換会であった。最後に次回開催県とのことで沖縄県からの挨拶で会を締め括った。

翌日の9月7日は、芦北漁業協同組合にて観光打瀬船乗船体験を行った。参加者は、配船表のとおり4つの船に分かれて乗船体験を行った。打瀬船とは、帆を張った帆船に受ける風の力を利用して底曳き網を曳く伝統漁法で、動力は漁場までの移動のみで使用し、漁はすべて風力等自然の力を利用して行っている。芦北では打瀬船のことを「流れ船」と呼び、底曳き網で主にアシアカエビ、イシエビ、カニ、シャコなどを漁獲している。乗船体験を行った船は「広洋丸」で親子操業の漁船であった。出航後30分程で漁場に到着し、帆を張って底曳き網を設置。底曳き網を風の力で曳航している間、船上で手釣りによる一本釣り体験を実施。釣れた魚はすぐに船頭さんが刺身まで解体して試食。その間に体験乗船用の昼食が準備され昼食となった。昼食は定置網で水揚げされるエビ、カニ、シャコなどを事前に調理したもので鮮度が良く参加者でおいしくいただいた。昼食後、片付けが済んでからいよいよ底曳き網の網上げを行った。底曳き網用の重りも昔ながらの石製の重りを使用

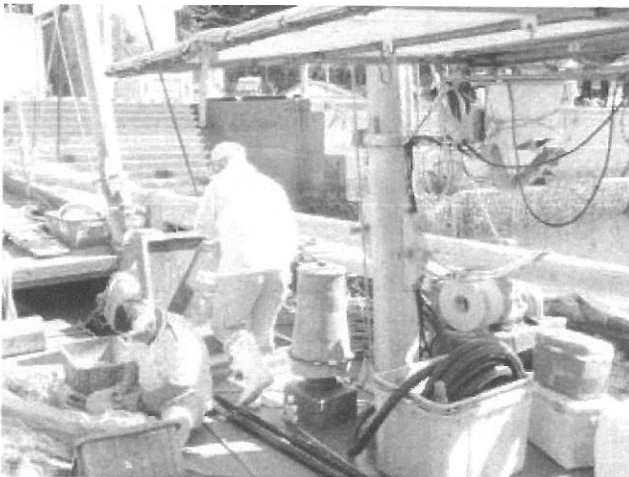
しており、これを機械と手作業で網上げしていった。水揚げは、クラゲが混入していたが、コチ、イカ、エビなどが入網していた。その後、漁港へ戻り乗船体験は終了となった。

乗船体験は、近年の水産資源の減少で漁業として成り立たないものを伝統漁業であることから観光とマッチングさせて復活させたものである。今回乗船した漁船も親子操業であったが後継者育成にも成功している優良事例であった。

次年度は沖縄県開催であることから、九州ブロック漁業士研修会はもとより現場視察などを含め有意義な研修になるよう十分に検討を重ねる必要がある。



漁場に到着してから底曳き網を曳航するため帆を張る



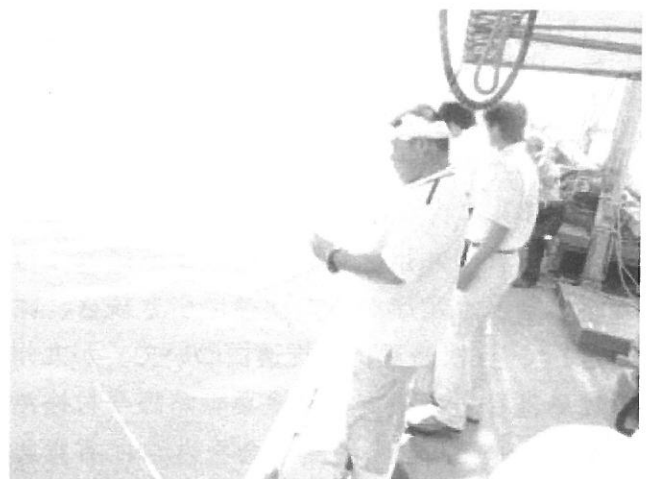
体験乗船出航前の様子



底曳き網を入網する



体験乗船へ出港する別グループの打瀬船



底曳き網を曳いている間の手釣りによる一本釣り体験の様子



手釣り一本釣りで釣れた魚はその場で手際よく刺身にされ全員で試食した



底曳き網で使用するおもりは昔ながらの石製のおもりを使用



体験乗船用の昼食の様子。事前に漁獲されたエビ、イカ、シャコなどのフルコース



水揚げされた底曳き網の漁獲物、クラゲが大半を占めている



底曳き網の網上げの様子



漁獲物は、コチ、イカ、エビなどであった